

岡田宮

宝永4年(1707) 貝原益軒書

第59号

平成27年7月吉日

発行 岡田宮社務所

郵便番号 806-0063

北九州市八幡西区岡田町1番1号

電話 (093) 621-1898

FAX (093) 621-5330

ホームページ <http://www.okadagu.jp/>

Eメール okadajinja@jcom.home.ne.jp



岡田宮夏越祭 「ごあんない」

平成二十七年七月二十九日(水)

午後六時~九時(雨天決行)

社頭に設けた茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄を招来するという古式に則った夏越祭を厳修いたします。

大祓神事 午後六時より

どなたでも参加できます。

参列の方には大祓詞をさしあげます。

ふるつてご参加ください。

当日ご参拜の方に

■「お札」と「茅」を授与いたします。

魔除けとして玄関に奉斎して下さい。

■無病息災・除災招福御神酒接待

ご参拜の方に御神酒をご奉仕いたします。

■かき氷100円

地元青年会の屋台がたちます。

17:00 ちびっこ縁日

スーパーボールすくい・ヨーヨーつり
焼き鳥・唐揚げ・ドリンク

※キャンドルを作ってくれた児童には
スーパーボールすくい・ヨーヨーつり
の引換券を差し上げます。

17:00 奉納書道表彰式

18:30 キャンドルナイト点灯式

19:00 ステージイベント

100円券

当日この券をご持参ください

目次

夏越祭ごあんない	1
総代会研修旅行 (高良大社・道の駅・ 大刀洗平和記念館めぐり)	2
郷土地名考 59	3

神社なぜなぜ問答 59	3
七五三	4
巫女奉仕者募集	4

総代会研修旅行より

高良大社・道の駅・
大刀洗平和記念館めぐり

平成二十七年三月十四日の総代会研修旅行では久留米方面での研修旅行でした。当日朝八時半に神社を出発し雨がぱらついていましたが久留米に近づくにつれどんどん天候がよくなり、青空のもと旅行日和となりました。まず、最初の目的地は久留米の高良大社に行きました。高良大社は旧国弊大社であり、延喜式内明神大社の筑後国一の宮として言われており、御祭神は高良玉垂命（こうらたまたれのみこと）八幡大神（はちまんおおかみ）住吉大神（すみよしおおかみ）の三柱の神様をお祀りしています。また厄除け、延命長寿、交通安全をはじめ生活全般をお守りする神様として篤く信仰されています。その高良大社では正式参拝をした後竹間宮司様の御案内のもと神社の由緒、社殿の造り、宝物館で宝物についての御説明をしていただき、その後竹間宮司さんと記念撮影を撮り高良大社を後にしました。昼食をとった後、久留米の道の駅に行き久留米で取れた、新鮮な野菜などがたくさんありました。道の駅を後にし、次の目

的地は大刀洗平和記念館に行きました。大刀洗平和記念館ではかつてこの地は東洋一と謳われた旧陸軍大刀洗飛行場があり、その歴史をかたりべの方にDVDを観ながら御説明をしていただきました。その後零式艦上戦闘機三二型に乗り多くの方々が写真をとっていました。

奉職して初めての研修旅行に参加し、多くの総代さんとお話することができ有意義な研



修旅行が出来ました。この研修旅行で学んだ事をこれからの神明奉仕にいかしていきたいと思います。お忙しい中、おもてなしをしていただいた高良大社の皆様に心より感謝申し上げます。



郷土地名考 59

原 町 (はらまち)

西原町もあったが住居表示は原町に統合された。昔は小倉城郭外、藩士の屋敷地が広がっていた。原っぱだったから原町。昭和の始めごろまでには随所に溜め池があった。

関東大震災で焼けた東京兵器工廠が1935(昭和十)年、小倉に移転、小倉造兵廠となり、数万の従業員が各地から入りこみ、小倉の町はカーキ色の制服であふれた。世間は造兵廠従業員を「はかりみかん」と呼んだ。ひと山いくらというわけだ。

原町にもスズラン燈の立ちならぶ商店街が生まれて賑わった。しかし戦時疎開で造兵廠周辺の家屋は取り崩され瓦れきの町に。戦後はその跡に刑務所や裁判所が移転した。

神社 なぜ 問答

(その59)

直会(なおりい)の

意義について

教えて下さい。

直会とは、祭りの終了後に、神前に供えた御饌御酒(みけみき)を神職をはじめ参列者の方々と戴くことをいいます。古くから、お供えて神々が召し上がった食物を人々が戴くことで、神々の恩顧(みたまのふゆ)を戴くことができると考えられてきました。この共食により神と人が一体となるのが、直会の根本的意義であるということができます。

簡略化されたものとして、御酒を戴くことが一般的な儀礼となっていますが、これは御酒が神饌の中でも米から造られる重要な品目であり、また調理をせずにその場で直接戴くことができるため、象徴的におこなうものとなりました。

神々にお供えた物を下げて戴くということは、宮中においても毎年おこなわれる新嘗祭(にいなめさい)の際に、天皇陛下が親しく新穀を神々に捧げ、また御自らも召し上がるという儀礼に見ることができ、「神人共食」という祭りの根本的意義が示されています。

直会の語源を「なおりあい」とする説があります。神職は祭りに奉仕するにあたり、心身の清浄に努めるなどの齋戒をします。神社本庁の「齋戒に関する規程」には、「齋戒中は、潔斎して身体を清め、衣服を改め、居室を別にし、飲食を慎み、思念、言語、動作を正しくし、穢(けがれ)、不浄に触れてはならない」とあるように、通常の生活とは異なるさまざまな制約があり、祭りの準備から祭典を経て、祭典後の直会をもつてすべての行事が終了し、齋戒を解く「解齋(げさい)」となり、もとの生活に戻ります。「なおりい」の語源は、「もとに戻る」直るの関係を示して直会の役割を述べたものであり、直会が祭典の一部であることを指しています。

直会が神事として一般の宴とは異なるのも、こうした意義をもっておこなわれているからなのです。

七五三

七五三祭は、子供の成長にともない節目々々に神社にお参りして、いつそこの息災成長を祈る行事です。

三歳の男子女子の祝いを髪置、五歳の男子の祝いを袴着、七歳の女子の祝いを帯解きなどと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行われます。

なお、平成二十七年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

記

- 三歳 平成二十五年生 (かぞえ齢) 平成二十四年生 (満年齢)
- 五歳 平成二十三年生 (かぞえ齢) 平成二十二年生 (満年齢)
- 七歳 平成二十一年生 (かぞえ齢) 平成二十年生 (満年齢)

※年齢はかぞえ年でも、満年齢でもかまいません。
※毎日午前九時より午後四時半まで受付をしています。



正月巫女奉仕者募集

大神様のお側近くで巫女として仕え、結婚式やお神礼やお守りをお授けする女性奉仕者を募集しています。神様に仕える重要なお務めであり、貴重な体験になるかと思えます。

ご希望の方は神社社務所

電話 (621) 一八九八

までお問い合わせ下さい。

奉仕資格 高校生以上

未婚の方

※書類審査・面接が有ります。



できれば髪の長い方希望
茶髪不可 (程度によります)



スタジオカラーズ
STUDIO COLORS
produced by 有馬写真館

北九州市八幡西区岡田町1-44
TEL 093-621-2080

■営業時間 10:00~17:00
■定休日 水曜日

撮影衣装・着付・ヘアメイク無料

¥10,800~

(四切1枚・台紙付)

七五三お出かけレンタル衣装

¥0~

(お一人様)

新作ブランド衣装など多数取り揃えております